

「コーディネーターによるプロジェクト支援 ～自律とモチベーション向上のために～」が5キャンパスを TV会議システムで接続し開催されました。

実施報告

日時: 2010年6月24日(木) 17:15～19:00

場所: 湘南キャンパス 15号館4階第一会議室
 沼津キャンパス 1号館2階1-205会議室
 清水キャンパス 1号館3階1305会議室
 高輪キャンパス 1号館1階1-1会議室
 熊本キャンパス 新1号館3階会議室(N1305室)

司会: 尾崎 由佳(チャレンジセンター専任講師)

内容: 1. 自律とモチベーションの向上 ～心理学的視点から～
 (尾崎 由佳 チャレンジセンター専任講師)
 2. 経験の共有とディスカッション



1. 自律とモチベーションの向上 ～心理学的視点から～

尾崎 由佳(チャレンジセンター専任講師)

モチベーションの高め方に関する心理学的理論について、次のとおり解説を行った。人間のモチベーションは、内発的動機づけと外発的動機づけの2種類に分けられる。前者は「自分がそうしたいと望む」ことが行動の根拠となっている場合であり、後者は「外部から与えられた命令や賞罰」が行動の根拠となっている場合である。内発的動機づけによって行動している時、人間は興味関心や喜びを持ってものごとに取り組むという「自律的な状態」になる。このような「自律的な状態」を尊重しながらサポートするためのポイントは、①相手の立場に立つこと、②合理的な理由を与える／考えさせること、③選択する機会を与えることである。これら3つのポイントについて、良い指導例と悪い指導例を挙げつつ具体的なコミュニケーションの取り方を解説した。



2. 経験の共有とディスカッション

「どのようにしてやる気を出させるか」というテーマについて、参加者各自の問題意識の共有と解決案のディスカッションを行った。まず、問題意識の共有のために、参加者の指導経験の中から学生のやる気に問題を感じた事例を自由に挙げていただいた。その結果、「プロジェクト活動に参加しなくなってしまう学生がいる」「不本意ながら参加している学生がいる」「参加する気はあるのだが活動にうまく参加できていない学生がいる」「こんなつもりではなかったという思いで参加している学生がいる」「スケジュールの都合で参加できない場合もある」といった事例が挙げられた。これらの事例に共通するポイントは、「①そもそもやる気が低い」、あるいは「②やる気はあるのだが参加できていない」という2点である。そこで、これら2点の解決策についてディスカッションを行った結果、「なぜ参加できないのか理由を聞く」「食事をともにする」「学生のいるところへ訪ねていく」「やめる理由を聞いた上で、今後の自分の発展(成長)につながるかどうかを考えさせる」「スタートした頃の気持ちを全員で振り返る」などの事例や解決策が挙げられた。最後に、ディスカッションのまとめとして、学生のやる気を高めるためにはコーディネーターの適切かつ積極的な指導が重要であるという総括が述べられた。

